

ご挨拶

灘区のみなさん、いつもお世話になっています。暑い夏も終わり、過ごしやすい季節となりました。みなさんは、いかがお過ごしでしょうか。

私は、今年度、文教子ども委員会、外郭団体に関する特別委員会に所属しています。どちらの委員会も、問題は山積しています。みなさんとお約束させて頂いた「市民の声を届ける」という立場で、神戸市・灘区で暮らし、働き、学んでおられるみなさんの声をしっかりお聞きし、頑張る決意です。みなさんのご支援・お力添えを心よりお願い致します。



あじ ぐち  
**味口としゆき**  
神戸市会議員

子育てに頑張るママ・パパの応援を！  
子どもの命・成長を大事にした学校を



子育て世代のみなさんとお話しさせていただくと、子育ての喜びや大変さとともに、「いじめの問題を考えると心配で仕方ない」「学校で、子どもがしっかり過ごせるだろうか」など、小中学校の問題をよくお聞きします。神戸市政が子育て応援に力を入れるよう、頑張ります。

**中学校給食実現は、みんなの願い**  
実現に背をむける教育委員会を追及

中学校の昼食のあり方に関する検討会の第3回目が7月31日に開催されました。そこで、神戸市から提示された資料で、給食について「全員喫食」と「選択性」の比較や実施方式の比較表に、自校調理方式や親子方式に「調理施設の能力が固定されるため、食数の調整が困難(選択制に馴染みにくい)」などについて多くの比較項目に「X」を記入し、デリバリー方式(弁当箱)には「食数の調整が容易(選択

制に馴染みやすい)」などと「O」を記入し、比較項目で「X」はなしとしています。

一方、食中毒などの安全性では、自校調理方式が「被害は最小限(1校)」に対して、デリバリー方式による「被害は対象学校数(委託業者が担当する学校数による)」にもかかわらず、どちらも「△」にしています。

味口議員は、「検討会で、委員はこんな議論はしていない。だれの判断で評価を入れた

ものか」とただしました。

教育委員会の井川総務担当局長は「O△Xは一般的な評価を掲載した」「実際は視察先を委員に見ていただき判断していただく」などと答えました。

味口議員は「一般的な評価を当局が決めるのであれば、検討会はいらない。誘導するような表は撤回すべきだ」と強く批判しました。

**「いじめ・恐喝事件の真相解明を」教育委員会に迫る**



大津市で起こったいじめ自殺事件に、多くの方が「なぜこうした問題が起こるのか」「いじめをなくすにはどうすればよいのか」と心を痛めておられます。

8月の教育委員会では、神戸市で起こった「いじめ・恐喝事件」に対し、被害に合われたご家族から陳情が出されました。ご家族の願いは「いじめ・恐喝があったことを認め、再発を防止してほしい」というものですが、教育委員会は「いじめがあったかどうか断定できない」と、事実に向き合わない姿勢に終始しました。

味口議員は、アンケートの中身や、校長・教育委員会から出された報告書では、恐喝された金額など、具体的な数字も含めて報告が上がっていることを示し「なぜいじめの事実を断定できないのか」と指摘。陳情者もとめる「公正な専門家の第三者による判断」を実施するために、第三者委員会を立ち上げることを求めました。

子どもの命を守ることは政治の責任でもあります。「子どもの命が一番」が名実ともに貫かれる学校、行政、社会をつくるため、父母・教育関係者・生徒と力を合わせて頑張ります。